

皇時代（690年）以来1,200年以上にわたって営々と営まれてきたことを考えると、デジタルデータの式年遷宮も条件さえ整えれば十分に可能ではないかと思われる。いずれにしても文化活動には千年単位の超長期的視点が必要と思われる。

### 3. 3. 3 まとめに代えて

現在の電子書籍の発行者の多くは、その長期保存について、その必要性も重要性もあまり理解されていないように思われる。電子媒体は紙媒体の本よりさらに散逸・滅失する危険性が高いのにも関わらず、発行者にそれが永続的価値のあるものであるという認識が薄い。図書館員はその保存の重要性に気がついているものの、紙のようにとにかく書庫という場所をさえ用意すれば保存できるものではなく、有効な対策はとられていない。媒体変換や長期保存の体制の確立などの問題点はまだ、十分に認識されているとはいえない。

全般に、本調査にあつては保存という観点での質問がごく少なく、定量的な分析は困難である。本調査自体「現状把握」が主であり、過去の集積や未来への伝達といったことがあまり意識されていない。これは電子書籍の蓄積がまだ始まったばかりであり、文化的資産としての認識がまだ市民や研究者自身にも薄いことに起因すると思われる。

すべての文化資産は、それが生まれたときから保存を考えておかねばただちに散逸してしまう。本調査が、電子書籍の保存に関して、注意を喚起するものであることを望む。

（中西秀彦）

注

(1) 邦訳は『図書館ハンドブック』第6版から引用した。

日本図書館協会図書館ハンドブック編集委員会編. 図書館ハンドブック. 第6版, 日本図書館協会, 2005, p.63.

(2) 国立国会図書館関西館事業部電子図書館課. インターネット情報の収集・保存に関する実験事業の終了と今後の取り組みについて. 国立国会図書館月報. 2006, (546), p.10-14.

(3) 廣瀬信己. Web情報のデジタル・アーカイビング:WARPを中心に. 情報管理. 2005, 47(11), p.721-732.

(4) “電子情報の長期的な保存と利用”. 国立国会図書館.

<http://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/preservation.html>, (参照 2009-02-16).

(5) “電子情報の長期的な保存と利用”. 国立国会図書館.

[http://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/preservation\\_02.html](http://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/preservation_02.html), (参照 2009-02-16).

(6) 国立国会図書館. パッケージ系電子出版物の長期的な再生可能性について. 2006, 71p.

[http://current.ndl.go.jp/files/report/no6/lis\\_rr\\_06.pdf](http://current.ndl.go.jp/files/report/no6/lis_rr_06.pdf), (参照 2009-02-16).

(7) 国立国会図書館. パッケージ系電子出版物の長期的な再生可能性について. 2006, p.8.

[http://current.ndl.go.jp/files/report/no6/lis\\_rr\\_06.pdf](http://current.ndl.go.jp/files/report/no6/lis_rr_06.pdf), (参照 2009-02-16).

(8) 国立国会図書館. パッケージ系電子出版物の長期的な再生可能性について. 2006, p.13.

- [http://current.ndl.go.jp/files/report/no6/lis\\_rr\\_06.pdf](http://current.ndl.go.jp/files/report/no6/lis_rr_06.pdf), (参照 2009-02-16).
- (9) 国立国会図書館. パッケージ系電子出版物の長期的な再生可能性について. 2006, p.57.  
[http://current.ndl.go.jp/files/report/no6/lis\\_rr\\_06.pdf](http://current.ndl.go.jp/files/report/no6/lis_rr_06.pdf), (参照 2009-02-16).
- (10) OXFORD JOURNALS. “Perpetual Access”. Oxford University Press.  
[http://www.oxfordjournals.org/for\\_librarians/perpetual\\_access.html](http://www.oxfordjournals.org/for_librarians/perpetual_access.html), (accessed 2009-01-10).
- (11) 後藤敏行. 動向レビュー:電子ジャーナルのアーカイビング:海外の代表的事例から講読契約に与える影響まで. カレントアウェアネス. 2006, (288), p.15-18.  
<http://current.ndl.go.jp/ca1597>, (参照 2009-01-10).
- (12) “e-Depot and digital preservation”. Koninklijke Bibliotheek.  
<http://www.kb.nl/dnp/e-depot/e-depot-en.html>, (accessed 2009-1-10).
- (13) 後藤敏行. 電子ジャーナルのアーカイビングの現状:E-Journal Archiving Metes and Bounds を中心に. カレントアウェアネス, 2007, (294), p.16-19.  
<http://current.ndl.go.jp/ca1645>, (参照 2009-01-10).
- (14) “What is LOCKSS Program”. LOCKSS.  
<http://www.lockss.org/lockss/Home>, (accessed 2009-01-10)
- (15) Waters, Donald J. “ARL Endorses Action to Preserve E-Journals” ARL Bimonthly Report, 2005, (243), p.18-19.  
<http://www.arl.org/bm~doc/arlbr243.pdf>, (accessed 2009-02-18).
- (16) Kenny, Anne R. et al. E-Journal Archiving Metes and Bounds: A Survey of the Landscape. Council on Library and Information Resources, 2006.  
<http://www.clir.org/pubs/reports/pub138/pub138.pdf>, (accessed 2009-1-10).
- (17) 平成 16 年度 拡大する電子ペーパー市場と機械産業の取り組みについての動向調査研究報告書. 日本機械工業連合会, ビジネス機械・情報システム産業協会, 2005, p.79-82.  
[http://www.jmf.or.jp/japanese/houkokusho/kensaku/pdf/2005/16sentan\\_04.pdf](http://www.jmf.or.jp/japanese/houkokusho/kensaku/pdf/2005/16sentan_04.pdf), (参照 2009-02-16).